

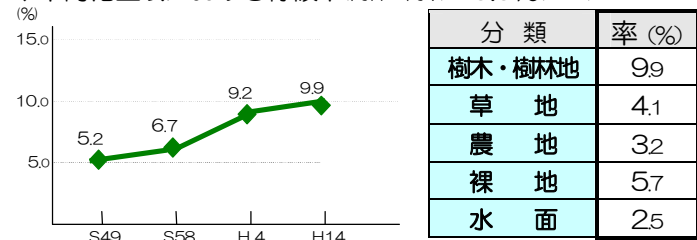
みどりの現況

◆周辺山系や農空間においては、担い手不足等により荒廃や減少が進み、みどりの機能の低下が危惧されています。

◇府域全体の緑地面積は、約4割を維持(H8~H17)
地域別緑地は森林や農地の減少等により約400ha減少、施設緑地は公園整備などにより約800ha増加

◆市街地では、都市化の進展により新たな緑化スペースの確保が困難となっています。

◇市街化区域における緑被率(樹林・樹木) 9.9%(H14)



◆大阪の都市にはみどりが「少ない」と感じる府民が約8割となっています。(府域全体については約5割)

みどりを取り巻く課題と対応

(1) 広域的なみどりのネットワークが必要

⇒海と山の近接性を活かした「みどりの風の軸」の創出

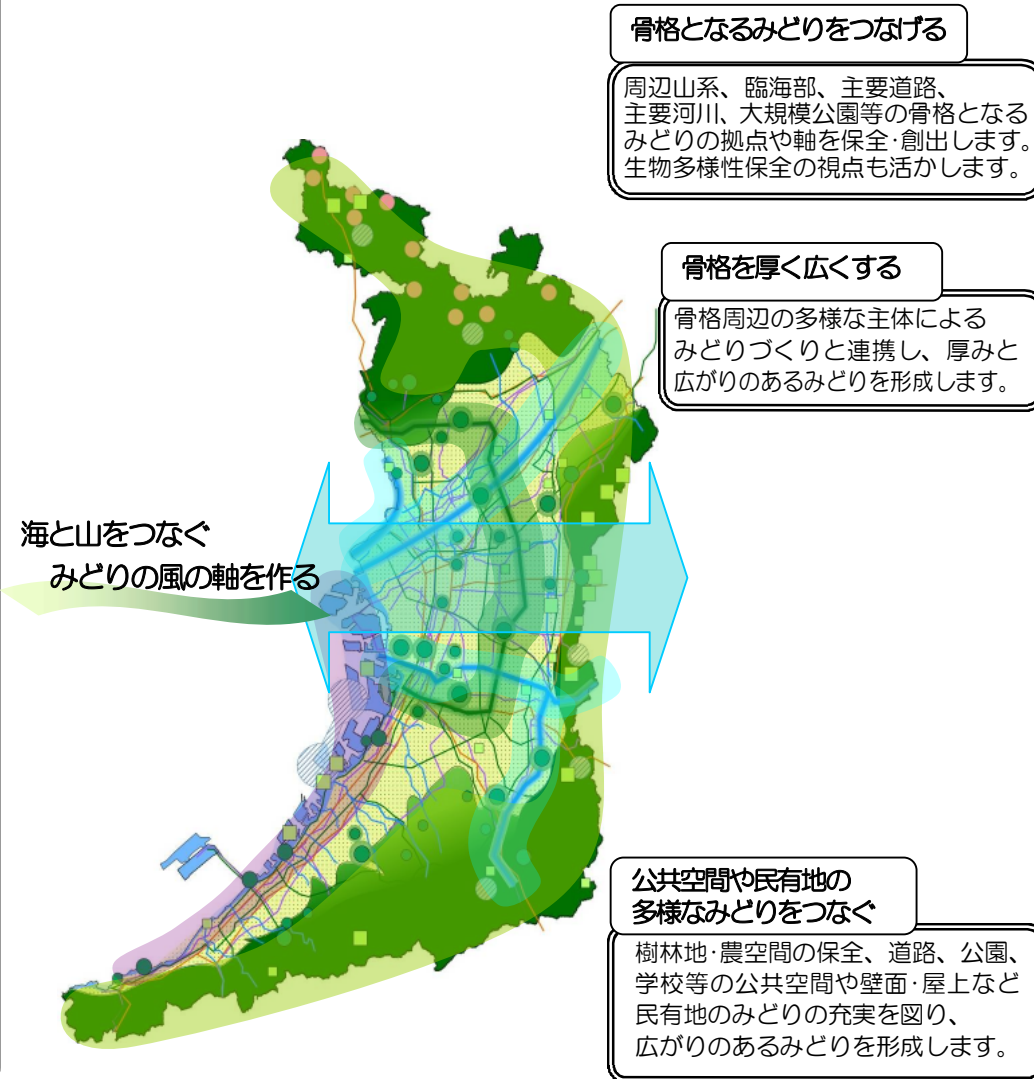
(2) 府民が実感できるみどりづくりが必要

⇒みどりの機能を発揮させる「周辺山系等の保全・再生」
府民実感を高める「みどりの量的充足・質の向上」

(3) 連携・協働の機運を活かし、高める必要

⇒民間の力を活かした「みどりのマネジメント」の仕組みづくり
市町村との連携による「みどりの連続性」の創出

みどりの配置方針と4つの基本戦略



基本戦略-2 みどりの風を感じるネットワークの形成

主要道路・主要河川・大規模公園緑地を軸や拠点として、山や海の豊かな自然を都市へと導く、みどりの連続性や厚み・広がり確保します

道路・河川を主軸としたネットワーク

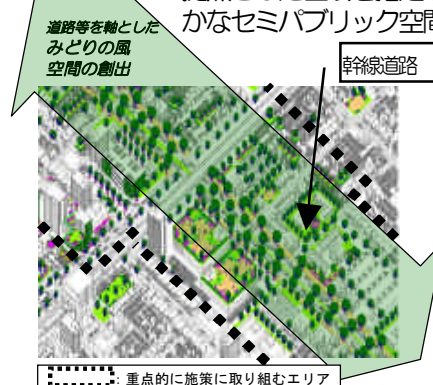
- 中環の森づくり
- 高木並木による緑陰づくり
- 「水の都大阪」の再生
- 持続的かつ多様な河川環境の創出

みどりの連続性や厚みと広がり確保

- 「(仮称)みどりの風促進区域」の検討
主要道路や主要河川、大規模公園などを軸や拠点とした区域を指定し、緑豊かなセミパブリック空間を創出

ネットワークの拠点となる大規模公園緑地

- 府営公園整備によるみどりの拡充
- 企業連携による「泉佐野丘陵緑地」整備
- 下水処理場上部緑化



基本戦略-3

街の中に多様なみどりを創出

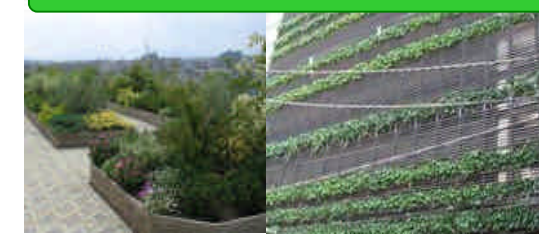
屋上・壁面など様々な空間にみどりを増やし、つなぎ、広げ、「都市の中でもみどりの風を感じる街づくり」を進めます

府有施設の緑化推進等



- 府有施設等緑化推進計画の推進
- 市町村管理施設等との連携

民有地のみどりの保全・創出



- 建築物緑化促進制度の推進・強化
・接道部の緑化を重点化など制度改革の検討
- 屋上・壁面・駐車場等新たなみどりの創出

計画期間と目標・指標

■計画期間 : 21世紀の第1四半期(2025年(H37))まで

■緑地の確保目標: 府域面積に対する割合を約4割以上確保

■緑化の目標(市街化区域): 緑被率20%(現況の1.5倍)

従来からの「樹林・樹木のみを対象とする緑被率」15%を目指しつつ、「樹木の植栽困難地でのみどりの確保」や「ヒートアイランド現象の緩和」等を早急に進める観点から、「樹林・樹木に芝生等を含む草地等を加えた緑被率」を新たな指標として設定しました。

■指標(3年毎検証):

- ◆大阪府域にみどりがあると感じる府民の割合を増やします <<約5割⇒約8割>>
- ◆最近みどりに触れた府民の割合を増やします <<約4割⇒約8割>>

■計画の点検と見直し: ◆施策に応じた実行計画の策定

- ◆取組状況や実績数値の整理・公表(毎年)
- ◆緑被率調査の手法・サイクルの検討
- ◆目標・実績数値・指標の検証、必要に応じた計画の見直し

基本戦略-1

みどり豊かな自然環境の保全・再生

周辺山系や農空間、大阪湾の豊かな自然環境の保全・再生により、「みどりの環境保全機能の発揮」「生物多様性の確保」「府民の憩いの場づくり」を実現

周辺山系の保全・再生



- 小規模開発協議制度の創設
- 新たな府立自然公園の指定
- 里山保全地域指定制度の創設
- 放置森林対策の推進
- 「生駒山系花屏風」構想の実現

農空間の保全・活用

- 農空間保全地域の指定
- 遊休農地の利用促進
- ため池、水路のオアシス整備

臨海部の保全・再生

- 「共生の森」づくり
- 河口干潟の再生
- 人工干潟の整備
- 港湾部の緑地の拡大

基本戦略-4

みどりの行動の促進

府民や企業、NPOとの協働による保全の体制や仕組みづくりにより、「みどりを通じた地域力の再生」を目指します

みどりづくりを通じた地域力再生



- 校庭の芝生化
- みんな育てる花いっぱいプロジェクト
- 緑化植酒び付

府民、NPO、企業等との連携推進



- CSR活動との連携
- アドプトプログラム
- 新たな公(協議会等)によるみどりづくり
- みどり基金など寄附制度の拡充

みどりの人づくり・組織づくり

- 子どもたちによる「身近な生き物調査」「冒険の森づくり」
- ボランティアリーダーの育成